

② 評価問題（課題2） 「思考力・判断力・表現力等」を測る評価問題の例

【内容】

- 1 地理総合（世界の気候と人々の生活） …… 先行研究の検証、評価を通じた授業改善
- 2 歴史総合（近代化と私たち） …… 単元全体の考察、評価を通じた考查問題の改善
- 3 地理総合（世界の地形と人々の生活） …… センター試験の利用、評価を通じた授業改善

1 地理総合（世界の気候と人々の生活）

タクミさんは、地理の授業で疑問を持ったことを、家に帰ってお姉さんのアツコさんに聞いてみた。そのときの会話文を読んで、あとの問いに答えよ。

タクミ：日向の気温と降水量を調べてみたら、図1を見つけたけど、日向は季節によって降水量に差があるので、C f aではないんじゃないの？

アツコ：いい疑問ね。まず、日向は①最寒月平均気温が -3°C 以上 18°C 未満の温帯に属するのは納得だね。

タクミ：納得。

アツコ：次に、年中降雨のfなのか、夏乾燥のsなのか、冬乾燥のwなのかは、図2で判別するんだ。

タクミ：なるほど。日向は冬乾燥のwに近いけれども、②図2の資料にあてはめると、wではなくfになるんだね。

アツコ：あとは③C f aとC f bの判断になるけど、日向はC f aとなるわけだね。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年
6.8	7.9	11.1	15.6	19.6	22.5	26.3	27.0	24.2	19.2	13.9	8.7	16.9
68	96	157	205	270	474	282	273	392	227	114	74	2633

図 1 上段：気温（ $^{\circ}\text{C}$ ） 下段：降水量（mm）

f、s、wの判別（熱帯を除く）

- ・ sになるのは、夏の最少雨月の降水量と、冬の最多雨月の降水量が、3倍以上差があるとき
- ・ wになるのは、冬の最少雨月の降水量と、夏の最多雨月の降水量が、10倍以上差があるとき
- ・ sでもwでもない場合を、fとする。

図 2

問 下線部①～③について、それぞれの記述を主張できるための根拠となるデータは、以下のどの選択肢の内容か、あ～かの記号で答えよ。なお、②は2つ選ぶこと。

- あ. 1月の気温が 6.8°C であること。 い. 8月の気温が 27.0°C であること。
 う. 年平均気温が 16.9°C であること。 え. 1月の降水量が68mmであること。
 お. 6月の降水量が474mmであること。 か. 年降水量が2633mmであること。

（解答例 ①あ ②え、お ③い）

(1) 出題の意図

令和3年度までの事業「資質能力育成研究会（評価問題研究部門）」の中の、次のような提案を踏まえて、作問・出題した。

これまで作ってきた知識（C）を答えさせる問題を少し改良させ、根拠（W）を答えさせる問題や、根拠となるのはどの図表（D）かを答えさせる問題にすると、思考力等を測れるのではないか。

(2) 正答率 ①78%（147/167） ②48%（80/167） ③19%（32/167）

(3) 分析

- ・ ①は、授業でも雨温図を使って判断させている内容であり、問題文にも最寒月平均気温で判断するよう書かれているので、正答率は高い。図表の読み取り（技能）はできている。
- ・ ②は、授業で扱っていない初見の内容であることと、問題文より最少雨月と最多雨月の2つのデータを選択しなければならないことから、問題の意味を理解できなかった生徒もいて、正答率は5割程度となった。
- ・ ③は、授業中にaとbの判別基準（最暖月平均気温 22℃）を学習したが、問題文中に判断基準が載っていないため、判断基準を理解できていない生徒が多いことが原因で、正答率が一気に低下した。

(4) 今後に向けた振り返り

- ・ ②のような、初見の内容に対応できる力を育成するための、授業改善。
- ・ ③で分かるように、知識・技能の力がなく、思考・判断・表現の力につながらない。

2 歴史総合（近代化と私たち）

問1 次の各問いについて論述しなさい。

(1) 江戸時代が貿易を統制した目的はどのようなものと考えるか。2つの語句を必ず使用して答えなさい。 【語句】 キリスト教 独占

（解答例：キリスト教への警戒があったことと、幕府が貿易を独占したかったため）

(2) 江戸時代の日本が急速な近代化を遂げるにあたり、一番重要だったと思う要因とどのように考えた理由を、2つの語句を必ず使用して答えなさい。

【語句】 教育 西洋文化

（解答例：庶民の間でも教育が盛んになり、寺子屋の増加などで基礎的な学問が全国で普及したことで、西洋文化を取り入れやすい環境にあったこと）

問2 次の各問いについて論述しなさい。

(1) 第2次産業革命は欧米列強をどのように変えたのだろうか。

（解答例：有り余る工業生産力と資本を得て新たな国内市場と資本輸出の場を求め、強力な武器を背景にさらなる植民地獲得に乗り出した）

(2) アメリカの開国要求に対して幕府がとった行動は、それまでの何が違い、どのような意味があったのだろうか。

（解答例：諸大名や下級の幕臣などに広く意見を求めて朝廷にも報告した。身分にかかわらず政治に対して意見をもつきっかけとなった。）

(1) 出題の意図

各項目（教科書見開き2ページ程度）ごとに、それぞれの項目の学習課題となる大きな問いを生徒自身に授業を通して考えさせ、その答えを定期考査で論述することで、思考・表現・判断の力を測ろうとした。

(2) 正答率 問1 60%程度 問2 50%程度

(3) 分析

- ・ 問1は、1学期期末考査で出題したが、語句を指定したために「なんとなく語句をつなげて正解にたどりついた答案」も多く見られた。
- ・ 問2は、2学期期末考査で出題したが、問1の反省を生かし、語句を指定せずに論述させることで、しっかりと時代の流れを理解した上で、思考・判断・表現ができてきているかを測ることができた。

3 地理総合（世界の地形と人々の生活）

問1 右の図で、凡例①～③は、安定陸塊、古期造山帯、新期造山帯のいずれかに該当する。安定陸塊に該当するものを選び、番号で答えよ。

問2 右の図で、凡例ア～ウは鉄鉱石、石炭、銅のいずれかである。鉄鉱石に該当するものを選び、記号で答えよ。

(解答例：問1 ① 問2 ウ)

(1) 出題の意図

世界の大地形と、産出される地下資源について学習したので、普段見慣れている円筒図法とは違う初見の図法を使って、大地形や資源の分布が思考・判断できるか、出題してみた。なお、本問題はセンター試験の問題を利用した。

(2) 正答率 問1 60%程度 問2 30%程度

(3) 分析

- ・ 問1では、図が世界地図だと把握できていない生徒が意外に多く、正答率が予想よりも低かった。
- ・ 問2では、問1が正答できていない生徒、大地形と地下資源との関連の知識がない生徒、アフリカ大陸の銅で判断に迷った生徒が多く、正答率は思った以上に低かった。

(4) 今後に向けた振り返り

- ・ 『地図でとらえる現代世界』の分野の指導法の改善が必要。普段から、さまざまな種類の地図を見る習慣をつける。
- ・ 問1の前に、「図のAの大陸、Bの海洋名を答えよ」という問題を入れると、世界図と把握しやすかったのではないかな。
- ・ 高校1年生の最初の時期なので、図中のアフリカやオーストラリアの安定陸塊にある銅は削除して出題してもよかったのではないかな。